

|    |                |
|----|----------------|
| 公表 | 事業所における自己評価総括表 |
|----|----------------|

|                       |              |     |        |              |
|-----------------------|--------------|-----|--------|--------------|
| <b>○事業所名</b>          | 希望の丘蒲郡       |     |        |              |
| <b>○保護者評価実施期間</b>     | 2026年 2月 9日  |     | ～      | 2026年 2月 27日 |
| <b>○保護者評価有効回答数</b>    | (対象者数)       | 35名 | (回答者数) | 35名          |
| <b>○従業者評価実施期間</b>     | 2026年 2月 9日  |     | ～      | 2026年 2月 27日 |
| <b>○従業者評価有効回答数</b>    | (対象者数)       | 11名 | (回答者数) | 11名          |
| <b>○事業者向け自己評価表作成日</b> | 令和 7年 3月 17日 |     |        |              |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※)だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること   | 工夫していることや意識的に行っている取組等   | さらに充実を図るための取組等  |
|---|--|---|---|
| 1 | ○人員配置<br>主に保育士資格を有する職員を多く配置し、療育にあたっている。一人ひとりに合わせた関わり(支援)を職員全員で共有している為、子どもの相談や困りごとに対してどの職員でも対応することができる。       | ・個人ファイルを活用し、一人ひとりの情報がいつでも確認できる状態にしている。<br>・共有ノートを作り、支援に関する伝達や共有したいことを職員が書き込んでいる。書き込んだものは各自見られるタイミングで確認し、全員が内容を把握できるようにしている。                             | 現在使用しているツールに加えSNS等も活用し、職員間で情報共有の漏れがないように努める。更に、個々の様子だけでなく日々の支援方法や活動のねらいについても共有することで、統一した意識のもと支援の充実を図る。                |
| 2 | ○保護者対応<br>日頃から相談しやすい雰囲気作りや関係づくりを行っている。また、職員体制を整えることで、保護者が話したいと思ったタイミングで対応できるようにしている。                         | ・保護者から相談があがった時は、事前に日時を打ち合わせ、立ち話ではなくゆっくり話ができるように心掛けている。<br>・送迎の際、こまめに職員から話しかけることで、話しやすい関係性を構築している。   | 直接顔を見ながらお話をすることを大切にしたいとは思っているが、自分から意見を伝えることが難しい保護者にも配慮した意見収集の方法として意見箱の設置などを検討する。                                      |
| 3 | ○環境<br>併設するむつみの丘の子ども達と交流を持つ機会を作ることができている。それにより、事業所内だけでは得られない人との関わりや経験の機会を持つことができている。                         | ・月に1度、むつみの丘の職員と合同会議を行うことで、お互いの施設の状況や行事などを把握し合っている。その中で、一緒に楽しめそうな季節の行事などを考え、定期的に子ども同士が関われる機会を設けている。<br>・普段から施設を越えて関わりを持つことで、全職員で子ども達の特性や支援方法の理解へとつなげている。 | 大型免許を持っている職員がいるので、関連施設からバスを貸りて出かけることで、今までより広い範囲で交流の機会を増やしていきたいと考えている。実現できたら、まずは鹿島こども園との交流を行い、その後その他の施設等とも関わりを広げていきたい。 |
| 4 | ○関係機関との連携<br>関係機関とこまめに情報共有を行い、一人ひとりに合った支援に繋げている。特に同法人のこども園とは連携が取りやすい為、情報共有に留まらず園に向かうことで大きな集団での様子も見ることができている。 | ・定期的子どもの様子の共有や支援の検討ができるように、月に1回を目安にスケジュールを組んでいる。<br>・連携会議を開催する目的を関連施設に伝えるとともに、意義のある話し合いになるよう予め職員間でどのような内容の話し合いを行うかを検討してから連携会議に臨むようにしている。                | 子どもが利用する関係施設との連携だけでなく、同法人の児童発達支援や放課後等デイサービスへの研修機会を充実させ、職員一人ひとりの支援の質を高めるとともに、施設全体の質向上も目指していく。                          |

|   | 事業所の弱み(※)だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること                      | 事業所として考えている課題の要因等   | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等   |
|---|---|---|--|
| 1 | ○支援プログラムに沿った支援より子どもの様子に合わせた支援を優先している為、支援内容が保護者へ伝わりにくい面がある。      | ・支援プログラムをもとに子どもの姿を予想して活動内容を決めているものの、その日の子どもの状態や生み出されたアイデア、天候などによって予定通りに実施しないこともある為、希望の丘蒲郡が大切にしている支援内容が保護者に伝わりづらい。                                   | ・どのような工夫を加えたら活動内容がより分かりやすく伝わるか、方法を検討する。<br>・保護者に伝える際に、活動が支援プログラムとどうつながっているかを内容に加えたり、活動が変更した時にはどのような理由で変更したかを伝えたりすることで、職員が持っている活動に対する意図が保護者に伝わるようにする。 |
| 2 | ○家庭支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)としての場を設けていない為、家庭支援への取り組みが保護者に十分に伝わらない。 | ・日常的な支援はプログラムと銘打っていない為、家庭支援の取り組みとして受け取られていない。<br>・相談時にお話したことや支援方法などが各資格取得者の方が伝えることと一緒にあったとしても、“プログラム”と銘打っていないことで専門性が伝わりにくかったり保護者の方に入りにくかったりする場合がある。 | ・子どもの困り感や関わり方に関する相談を送迎時の立ち話で対応すると、家庭支援としての認識がより薄れてしまうと感じる。内容に応じて相談室や事務室など落ち着いた場所で相談ができる場所で丁寧に聞き取ることで、保護者の安心感や満足感にもつながるようにする。                         |